

平成 28 年度 総合問題（生活科学科 食物栄養専攻）解答例

問 1（60点）

【採点のポイント】

- ・ グラフを読み取れているか。
- ・ 地域差が記されているか。

【解答例】

災害時の非常用食料や飲料を備蓄している世帯の割合は全国平均 47.4%で半数に満たなかった。地域別に見ると、東海が 65.9%で最も高い。東海に次いで高いのは、関東Ⅰの 60.8%、関東Ⅱの 53.9%、東北の 52.3%で、これら 4 地域が全国平均を上回っている。同じ関東でも比較的沿岸部に近く面している関東Ⅰと内陸部に位置している関東Ⅱでは備蓄に差があった。一方、残りの地域は全国平均 47.4%を下回り、北海道、北陸、近畿、四国は 4 割前後で、中国、九州は 2 割台にとどまり、特に九州は 24.6%で最低の値を示した。この調査の結果、非常用食料の準備状況には大きな地域差があることがわかる。

(289 字)

問 2（40 点）

【採点のポイント】

- ・ グラフを読み取れているか。
- ・ 主食、副食、飲料の備蓄状況の違いについて記されているか。
- ・ 地域差が記されているか。

【解答例】

非常用食料の主食、副食、飲料の備蓄状況をみると、全国平均では主食 66.3%、副食 62.5%、飲料 86.2%であり、飲料が他と比べて 20%以上高い。地域別でみると、飲料では一番高いのが関東Ⅰの 91.4%、次いで四国の 90.2%となっている。主食では東海が 72.5%と最も高く、次いで関東Ⅰ、中国が約 70%となっている。副食ではほ

とんどが 60%前後であるのに対して、九州のみが 74.0%と特に高い。(198 字)

問 3 (40点)

【採点のポイント】

- ・表から地域社会の状況が読み取れているか。
- ・年代による違いが記されているか。

【解答例】

「お互いに助け合っている」、「信頼できる」、「問題が生じた場合、人々は力を合わせて解決しようとする」項目は、年齢が上がるにつれて「思う」と答えている割合が高くなっている。「お互いにあいさつをしている」については、年齢層による違いは少なく、いずれも高い割合である。すなわち20～29歳ではあいさつ以上の地域のつながりが低いこと、高齢になるほど地域とのつながりが高くなることがわかる。(191字)

問 4 (60点)

【採点のポイント】

- ・図表の問題点について記されているか。
- ・災害時における食事面の問題点が記されているか。
- ・自分の考えを述べているか。

【解答例】

図 1 から、非常用食料を用意している世帯は半数にも満たず、備蓄状況は十分とは言えないことがわかる。このことより、いつ起こるかわからない災害に備えて、各世帯に応じた食料備蓄を早急に行うべきと考える。また図 2 より、飲料に比べて主食、副食の備蓄率が低いことがわかる。主食、副食は栄養素を確保する上で欠かせないので、バランス良く準備する必要がある。その際、備蓄量や賞味期限にも注意を払うことが大切である。

さらに表より、地域社会のつながりが若い年代ほど低

いことがわかる。地域の取り組みとして、若い世代を含んだ地域での避難訓練や食料備蓄の呼びかけ等を通して地域のつながりを深めることが大切であると考え。

(299 字)